



1、2 今年の企画員協議の様子。学校の枠を越えて企画を練っています。
 3~7 大会では高校生ボランティアが、プラカードでの選手誘導や演技審判、墨拭きなどで運営を支えています。



第12回大会
 8/4(日) 9:30~
 伊予三島運動公園
 体育館

書道パフォーマンス甲子園

高校生による高校生の大会

大きな紙に筆で文字を書く書道パフォーマンス。地元高校生ボランティアが大会運営の主体となり、今年も大会を盛り上げるためのさまざまな企画が検討されています。



▲これまでの書道パフォーマンスの様子

三島高校書道部がきっかけ
 書道パフォーマンスは、1チーム12人以上で音楽に合わせてダンスなどをしながら、縦4m×横6mの大きな紙に揮毫します。三島高校書道部が、学校の文化祭や地元のイベントなどでパフォーマンスを行ったことがきっかけで大会がはじまり、これが映画「書道ガールズ!!」わたしたちの甲子園」のモデルとなり、全国に広まりました。

高校生が大活躍
 今年の大会は全国から106校の応募があり、現在は本戦に出場できる20校を決定するために、DVDなどによる予選審査を行っています。大会では、全国から集まった選手がこれまで積み重ねた練習の成果を十分に発揮できるように万全の運営が求められますが、この運営に携わっているのが川之江高校、三島高校、土居高校の生徒53人の企画員と呼ばれる高校生ボランティアです。

企画員は、昨年の12月から月に一度のペースで授業の終了後に市役所などに集まり協議を行っています。今大会のキャッチコピー「**結んだ絆 今こそ光れ この夏に懸ける 熱き青春**」は企画員の保田さんが考えたものです。現在は、大会の広報などを担当するPR班、市の魅力を発信するアトラクション班、大会前日の選手交流を担当する交流会班、選手をもてなす選手歓迎班、観客をもてなす観客歓迎班の5つの班に分かれてさまざまな企画を検討しています。昨年は、企画員がデザインしたクリアファイルなどのPRグッズを販売したほか、蛇口をひねるとお茶が出る「茶口」を設置するなど、高校生の面白いアイデアで選手や観客のみなさんをもてなしました。

高校生の熱を感じてほしい！

大会当日は、企画員53人に加えて更に約50人の高校生ボランティアが加わり、総勢約100人の体制で大会を運営します。選手の熱い演技はもうろんのこと、それを懸命に支える高校生の姿をぜひ見に来てください。

問 書道パフォーマンス甲子園実行委員会事務局（文化・スポーツ振興課内）
 28・6037



三島高校3年 やすだおとめ 保田音萌さん

今大会のキャッチコピー（保田さん揮毫）
**結んだ絆
 今こそ光れ
 この夏に懸ける
 熱き青春**

全員が主役の大会に
 書道パフォーマンス甲子園に出場する選手、そして全国から訪れる観客のみなさんの力になりたいと、高校生ボランティアの企画員に応募しました。自分が考えたキャッチコピーが選ばれて驚きましたが、とてもうれしく思います。今大会のPRテーマが「結」なので、その言葉を生かすことに苦労しました。今年は元号が変わった節目の年です。これまで積み重ねた伝統をつなぎながら新たなスタートを切り、仲間との固い絆と熱い演技で、選手も観客のみなさんも感動できる大会、そして一生の思い出に残る大会になつて欲しいとの思いを込めました。また、甲子園や高校生の夏といえば青春です。この夏に懸ける選手達の熱き青春が、最高に輝いたものになつて欲しいと願っています。



土居高校3年 金澤侑也さん

最高のおもてなしを
 土居高校では、生徒会から5人が参加しています。これまでは部活が忙しく書道パフォーマンス甲子園を観戦できませんでした。が、書道で人を魅了する姿はこもか、こいと思えます。観客歓迎班の班長を務めているので、前回大会よりも観客のみなさんに喜んで楽しんでもらえる企画を考えたいです。また紙のまちを情報発信することで、地域貢献にもつなげたいです。



川之江高校教頭 園部孝行さん

地域での活躍に期待
 現在の学校は、コミュニケーションやマネジメント能力、また表現力など社会で役立つ目に見えにくい部分を伸ばすことに力を入れています。生徒が書道パフォーマンス甲子園などの地域行事に関わることは、生徒自身が成長し、地域の良さを知り、誇りに思う絶好の機会になると考えています。失敗を恐れず、いろんな企画にチャレンジして欲しいです。